

「女性と防災」の 取組紹介

めざせ！すぐ出せる パッと使える防災備蓄のコツ

12月1日にクレオ大阪西でセミナーを実施した際、講師の防災備蓄収納マスタープランナー・防災士の三原麻弓さんから“毎日の暮らしになじむ防災備蓄”をご提案いただきました。
みなさんも家の中をチェックしてみましょう。

《安全で安心な家 = 逃げられる家》

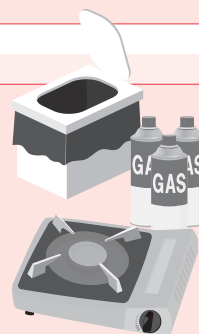
配布されたチェックリストの中でもポイントにしたいのは「家具、電化製品等が落下、転倒しても当たらないか、逃げ道を塞いだりしないか」です。ドアの前に倒れてくる危険性はありませんか？ 時期が真夏や真冬だったら、あるいは子どもだけが部屋にいたら…二次災害も考えられます。ぜひ、家具、家電を配置するときは「安全、安心」を念頭に入れてください。



カセットコンロ・ガスボンベ、携帯トイレ

ぜひ自宅避難に備えて持っていてほしいものです。万が一のときに買いに行っても売り切れの場合が多いので、普段からストックしておきましょう。ちなみにボンベの使用期限は約7年ですが、使わないまま保管するよりは使いながら補充していく「ローリングストック」をおすすめします。

トイレについてはバケツに水を汲んで流すことはおすすめできません。なぜなら配管が損傷しているかもしれず、安易に流すと溢れたり、集合住宅なら下の階に汚水が漏れたりしたケースが頻発したからです。便器が無事なら、ビニール袋をかぶせて凝固剤で固める「携帯トイレ」の方が安心です。子どもでも簡単に使えますし、コンパクトに収納できるタイプもありますので、ホームセンター等でチェックしてみてください。



水と食料の備蓄にはコツあり

そして、備蓄といえば「水と食料品」です。水は重くて場所も取るので、つい廊下に置く、となりがちですが、それでは万が一のときケガの元になりかねません。1ケースは備蓄にしておいて、あとは普段の暮らしで消費して補充することを繰り返してはどうでしょうか？ コツとしては、500mlサイズなら、日常でもこまめに使えるし、持ち出し袋にも入れられます。また、台所や納戸に1か所にまとめて置かなくても、寝室や2階などに分けて置いておくのもいいと思います。

食料の備蓄に迷ってしまう方は、まずは献立を考えるとところから始めませんか？ いわゆる備蓄用非常食でなくても、一般の食品にも賞味期限が長いものがありますので、自分や家族が万が一のときでもおいしく食べられるものを探してみましょう。



日常に必要なものは非日常でも必要なもの

私たち地域出前セミナー「女性と防災・減災」で備蓄の必要性についてお伝えしています。なぜなら、女性にとって絶対に必要なものが、万が一のときに手に入らなかったり、避難所で「私は〇〇が欲しいです。」と言えなかったり、仮に配給されたとしても望んでいたものとは違ったというケースが、過去の被災者の方々へのアンケート等で多く報告されているからです。

日常生活で必要なものは、万が一の事態でも必要になってきます。たかがモノくらいで、と侮ることはできません。もしなければ、その人の生命と尊厳に関わってくるものだって少なくないのです。

備蓄は、「災害は他人事ではない」を実行する最適の第一歩といえます。自分の命を守るためには、自助が重要です。少々大げさかもしれませんが、被災という、ある意味、極限状態に生きることになったとしても、人間性を失わずにいるために備蓄は不可欠で、そしてそれは普段の生活の中で意識していくことが大切です。

クレオ大阪地域出前セミナーについて

大阪市内の地域団体・学校・企業等へ、男女共同参画にかかわる研修および授業を「届ける」プログラムを実施しています。テーマの希望に合わせて、企画から当日の実施運営までを担当区のクレオ大阪が行います。

詳しくは、<http://www.creo-osaka.or.jp/demae/demae2018.html>



『女性と防災・減災』のテーマでは、

災害発生時や復興支援の場において、男女や世代の違い、置かれた状況の違いに応じた、きめ細やかな対応が大切です。災害時における女性が抱えやすい困難等を知ることにより、女性の視点や男女共同参画をふまえた、地域での防災・減災のまちづくりをともに考える内容です。2018年度の申込は終了いたしました。4月より2019年度の募集を開始いたします。地域の皆様と申し込みませんか。

※3月21日(木・祝)に「女性のための防災教室」をクレオ大阪西で実施します。詳しくは、13ページをご覧ください。